

科目名	経済予測論 A
担当者	嶋中 雄二
配当学期	春学期
単位	2単位
授業概要	<p>経済は、好況と不況を繰り返すばかりか、時には恐慌に陥ることもある。本講は、時々刻々と変化する経済情勢を、実際に、生きた経済データ・景気指標により把握し、それらの材料を用いて自分なりに先行きを予測するための方法を、主に景気循環論を通して学ぶことを目的としている。</p> <p>経済予測には、政府・日銀などが政策運営の前提として作成している官製のもの、銀行・証券会社・シンクタンクなどが企業経営や投資方針の決定に役立つように発表している民間のものが有力である。予測の期間も超短期・短期・中期・長期などがあるが、各々の目的に応じて、社会で広く活用されている。</p> <p>本講では、経済予測の方法を概説した上で、現状認識や判断基準、そして予測そのものの差異を巡って起きた、過去の複数の経済論争の事例研究を行い、経済予測の本質に迫りたい。なお、講義は、デフレ・雇用問題や地方景気、中小企業の景況にも目を配る他、国内外の最新の景気指標やマーケット・金融政策動向を解説しながら進めていくので、わかりやすく、興味をもてると思う。</p>
授業の到達目標	内外景気の現状判断と先行きの展望について語れるレベルになる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 経済予測とエコノミストの役割 (2) 経済予測の目的と意義 (3) 経済予測の対象と種類 (4) 経済予測の方法 (5) 経済予測の実際 (6) 景気循環とはなにか (7) 短期循環と在庫投資 (8) 中期循環と設備投資 (9) 長期循環と建設投資 (10) 長期波動とインフレ・デフレ (11) 景気の現状認識と判断基準 (12) 景気転換点の予測とその方法 (13) 政府・日銀の景気判断と経済見通し (14) 民間の景気判断と経済見通し (15) 地域経済・雇用・中小企業動向の把握
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 嶋中雄二/三菱 UFJ 証券景気循環研究所編著『先読み！景気循環入門』（日本経済新聞出版社、2009年）を使用する。 ・ ほぼ毎回、嶋中の最新の講演資料を配布する。

参考文献	嶋中雄二+UFJ 総合研究所投資調査部編著『実践・景気予測入門』（東洋経済新報社、2003年）。	
成績評価方法		評価基準
	試験 0%	実施しない。
	レポート 50%	簡単なもの。 講義の内容や課題の趣旨に沿ったレポートの作成を望む。
	平常点評価 10%	講義中のやり取りの中で、講義内容の理解度を確認する。
	その他 40%	休講を除く全回の出席で、40%の得点とする。但し、大幅な遅刻は、他の出席者との公平性を確保するため、特別な事情がない限り減点する。
関連 URL	http://www.sc.mufg.jp/ 景気循環研究所レポート	
備考	後期科目「経済予測論 B」と併せて選択することが望ましい。	